

# 八王子市市立加住小中学校

## 保護者教育アンケート（考察と改善策）

八王子市立加住小中学校

副校長 野場 正道

吉留 光生

池田 栄一

教育アンケートのご協力ありがとうございました。アンケート結果の数値や保護者の皆様のご意見をもとに次年度に向けた改善点を検討いたしました。

### 1 教育活動アンケート 提出率

昨年度提出率 7月 33.7% 12月 27.3%

	児童生徒数	7月		12月	
		提出数	提出率	提出数	提出率
小学部	209	115	55.0%	85	40.7%
中学部	86	69	80.2%	63	73.3%
合計	295	184	62.4%↑	148	50.2%↑

### 結果

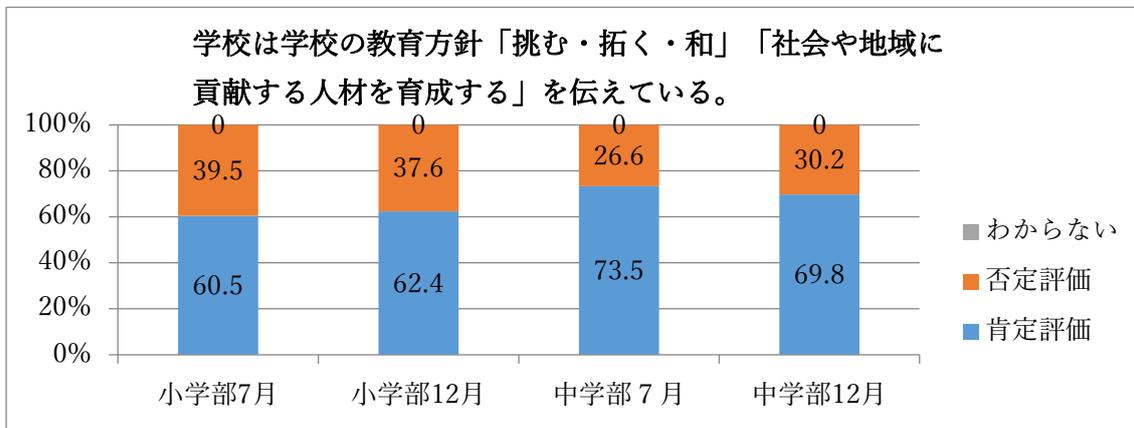
昨年度より、提出率が向上しています。ご提出いただいた保護者の皆様。ご協力ありがとうございました。

### 考察・改善策

さらに多くの保護者の皆様のご意見をいただき、改善を図りたいと考えております。教育アンケートの項目についても検討し、より改善に効果的な方法を検討していきます。

## 2 保護者アンケート（7月・12月）の結果から

### 設問1



### 結果

小学部・中学部ともに70%以下の数値を示している。

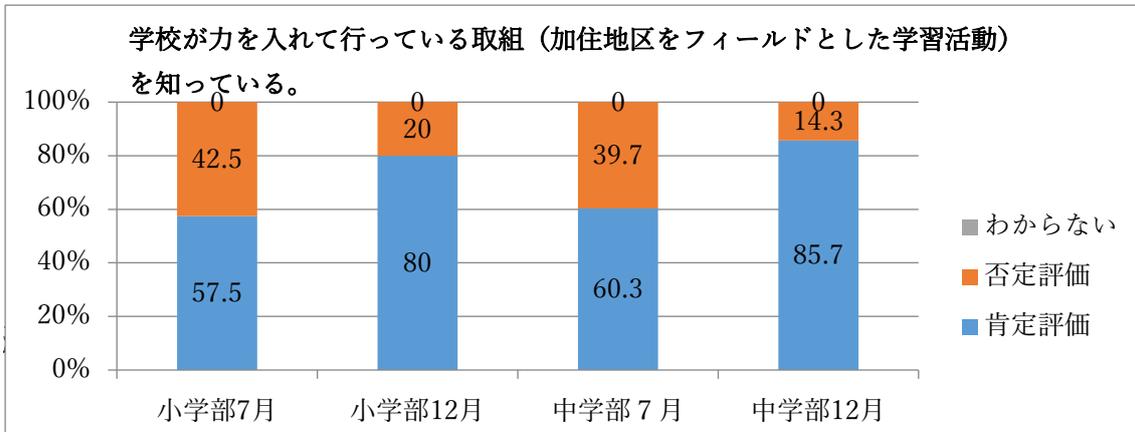
### 考察

今年度は、地域との関連的な活動や体験活動など様々な活動が中止となり、子供たちを主体的に活動させていく取組を十分に実践することができなかった。また、教育方針と教育活動を関連付け、地域や保護者の方々に伝える機会も不足していたと考えられる。

### 改善策

次年度は、新型コロナウイルス感染症の対応を適切に行い、少人数での関わりやICTを活用し、児童・生徒の教育活動を工夫して行っていく必要がある。また、本校の教育方針について、様々な教育活動の機会で見守り・地域の方々に情報提供していく必要がある。

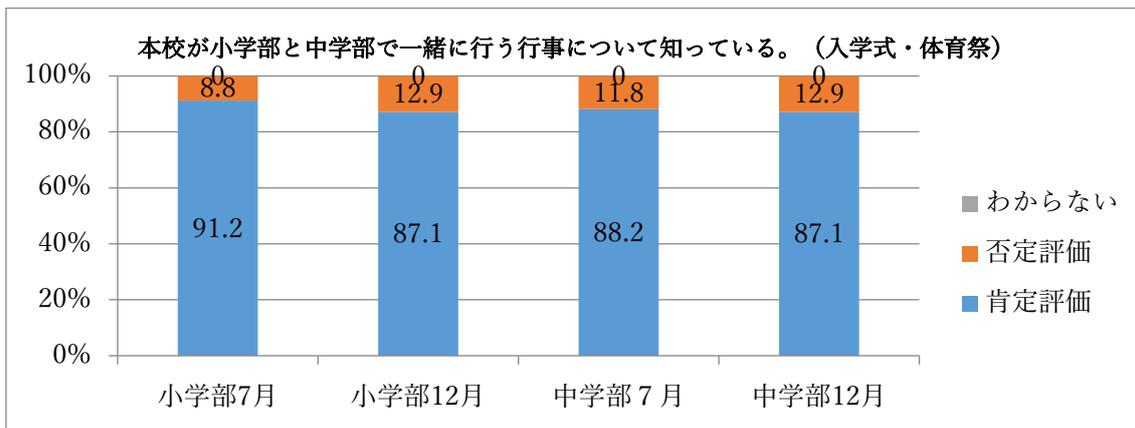
## 設問 2



## 考察

社会や生活科、総合的な学習の時間において、地域の支援者や地域施設と関連した取組を行った。また、スクールファームや放課後子ども教室、花育・バケツ稲の活動など、コロナ禍の中でも、地域の方々のご協力を得ながら子供たちの教育活動を止めずに進めて来たことが高い数値を得た原因と考えられる。

## 設問 3



## 結果

小中学校ともに85%以上の数値を示している。小中合同体育祭の保護者アンケートでも概ね好評なご意見を頂いている。

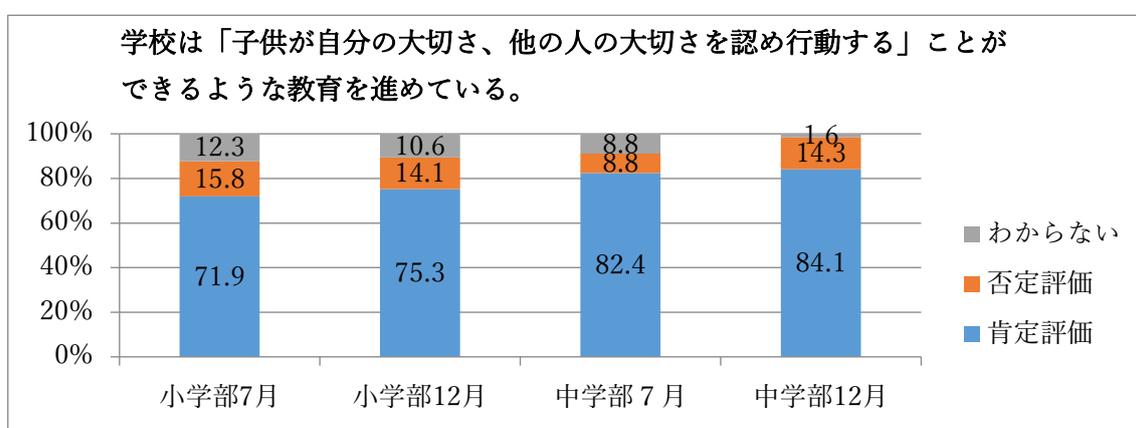
## 考察

新型コロナウイルス感染症対応のために中止の検討も考えられる状況ではあったが、感染症予防の取組を明確にしながら、小中合同の体育祭や入学式等、小中一貫校としての教育活動を進めてきたことを理解していただいた結果だと考えられる。

## 改善点

小中が一体となった教育活動の良さを子供たちや保護者の皆様により一層理解して頂くような工夫を次年度に向けて検討する。

## 設問4



## 結果

中学部で80%以上と数値が高くなっている。

## 考察

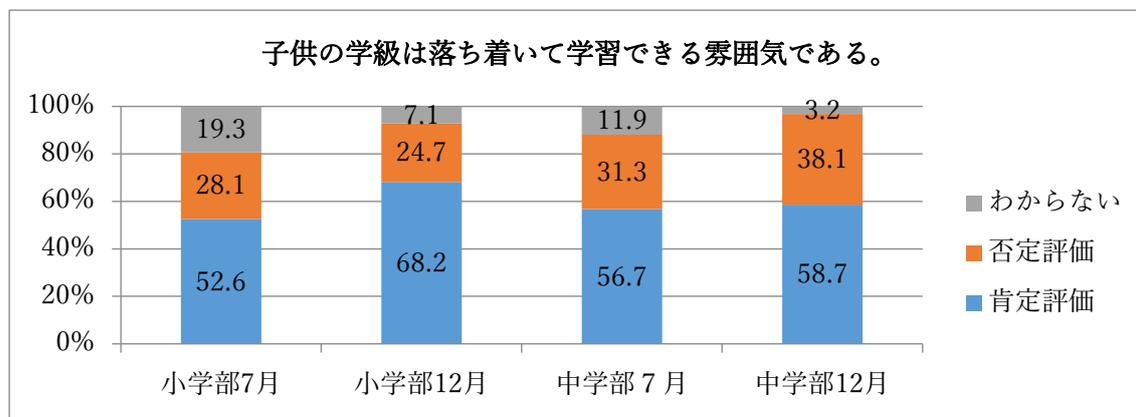
校内研究での道徳授業研究・研修で、違う校種の教員同士が年間を通して互いの指導法について研鑽し合うことができていた。また、日々の道徳授業についても、確実にやっている。

中学部では、2学期中にオンラインを活用した意見交流などの授業を実践するなど、指導の工夫を行うことができた。

## 改善策

校内研究での道徳授業研究・研修については、小中学校が一体となり、次年度も継続して、研鑽に努める。また、子供たちが互いの存在を認め合い、思いやりをもてるように、指導・支援の工夫を行う。

## 設問5



## 結果

小中学校ともに、70%以下の数値となっている。

## 考察

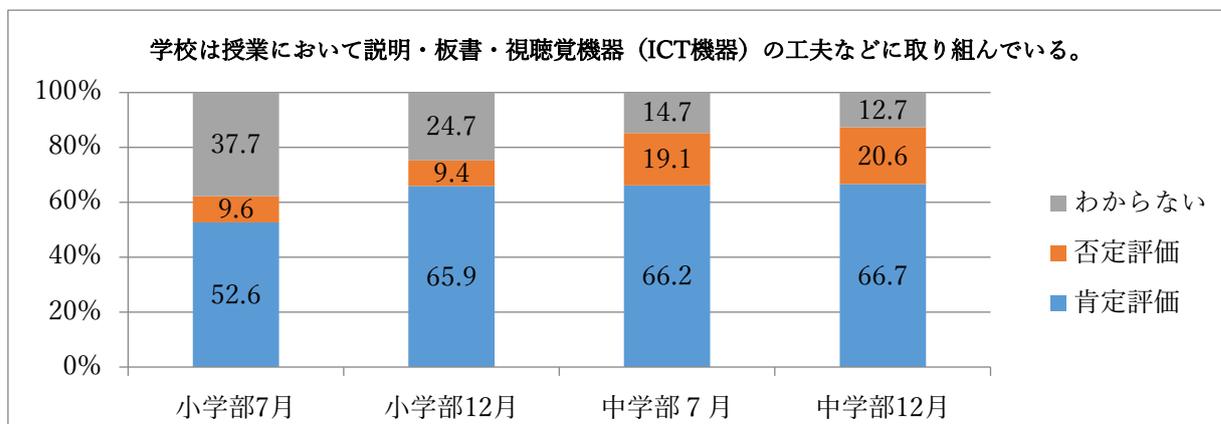
7月と12月を比較すると数値は高まっているものの、全体として評価は低くなっている。特設や各教室での生活指導・道徳科の充実や研究など、子供たちが落ち着いて集団生活ができるように根気よく指導を行ってきたが、十分な効果を得られることができなかったという評価を受けている。特に大きな行事に複数の小さな行事が重なった時期に、児童・生徒が落ち着かなくなる現状もあったと考えられる。

## 改善策

行事の時期を検討するとともに、行事の量を精選し、内容の質を高めることを目標にして行事に向う。また、一つ一つの行事の振り返りや子供たちの達成感を大切にしていく。生活指導方針についても小中一貫したきまりとして明確にするなど、善悪の判断を子供たちに分かりやすく指導する。

現在、数人の学校サポーターを個別支援として児童・生徒に充て、落ち着いた集団生活を送れるように対応し、よりよい効果が挙げられている。次年度も継続する。

## 設問6



## 結果

70%以下と数値は低くなっている。

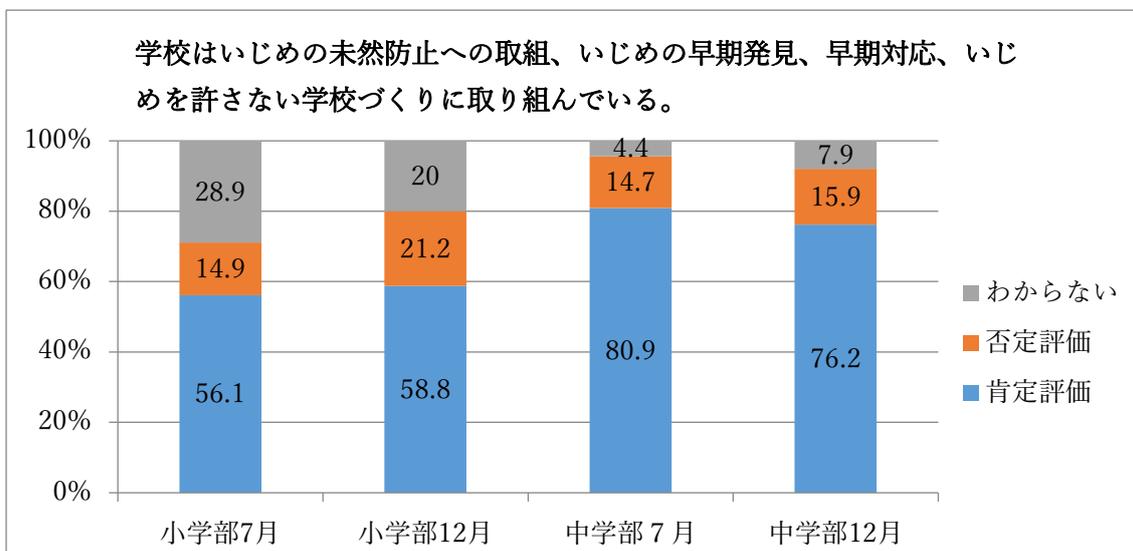
## 考察

ICT機器を活用した授業研究・授業の工夫を推進してきたが、十分に保護者に伝える機会を多くする必要がある。

## 改善策

次年度、一人一台端末を効果的に活用する指導法の研修や研究を教職員全員で協働して行い、指導力の向上・指導の改善を図る。

## 設問7



## 結果

小学部での評価が60%以下と低い。また、「わからない」と回答した保護者が20%以上と高い数値となっている。

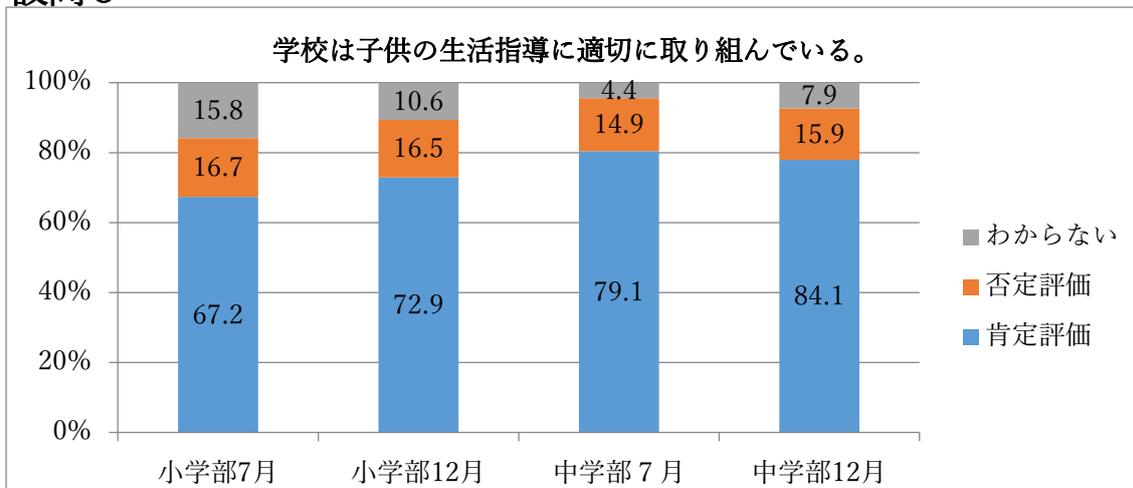
## 考察

日々の道徳科の授業や生活指導・いじめ対策委員会など、いじめに対応する取組について保護者からのご理解が充分得られていないと考えられる。早期対応・早期発見など個に応じた素早い対応を教職員全員がさらに意識してすすめていくことや保護者との情報連携をさらに密に図る必要がある

## 改善策

本校の「いじめ対策委員会」をより適切な対応を行う組織として運営するために、教職員一人一人が一致団結して「いじめ撲滅」に取り組んでいく。情報共有・早期発見・早期対応を強く意識するとともに、いじめの教員研修や子どもたちの思いを積極的に汲みながら対応を行っていく。特に、情報の共有化や親身な対応を心がけ問題解決に努めていく。また、いじめ対策プログラムなど、子供たちが他者や集団とのかかわり方を学ぶ取組や学習機会を学校行事・各学級・特別支援教室などで工夫して行う。

## 設問 8



## 結果

小中学校ともに12月に数値が向上している。

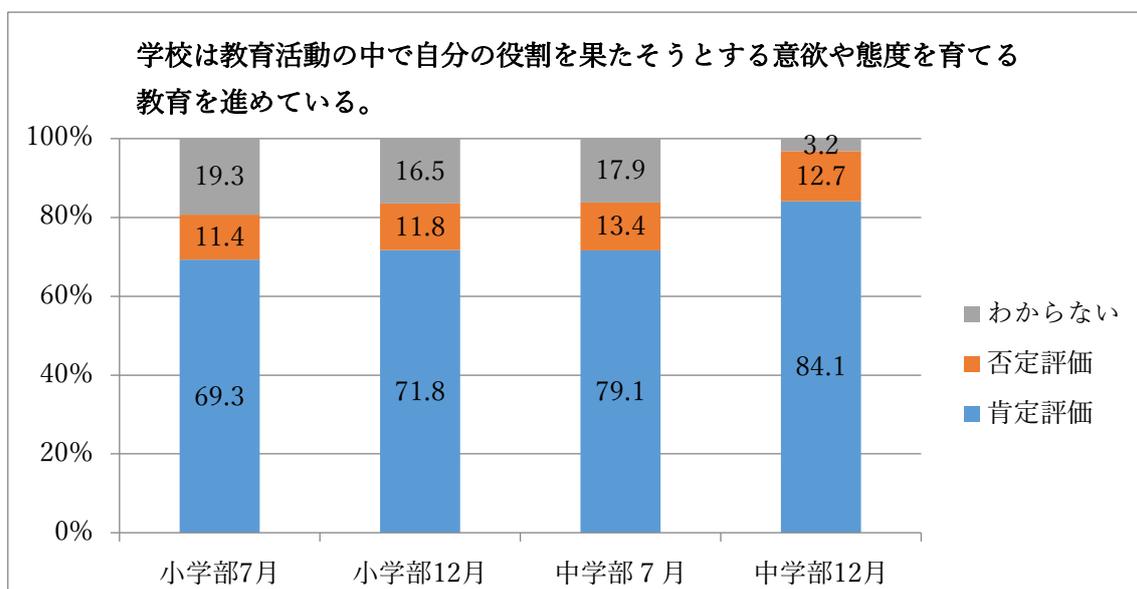
## 考察

小学部・中学部ともに、生指導面での指導を根気強く行っていることが7月から12月にかけての数値の向上につながっていると考えられる。設問5「子供の学級は落ち着いて学習できる雰囲気である。」では、小学校の数値が15.6ポイント向上ことから、7月よりも日々の指導についてご理解を得られたことが分かる。

## 改善策

学級満足度調査（QU調査）の情報を分析し、子供たち一人一人の思いを大切に、学級集団の中で居場所を感じられる学級づくりに努める。また、集団生活のきまりや互いに思いやりをもって生活する態度について、日常的な指導や道徳授業の充実によってさらなる改善を図る。

## 設問9



## 結果

中学部で80%と数値が高い。また、小学部で「わからない」と回答した保護者が15%以上いる。

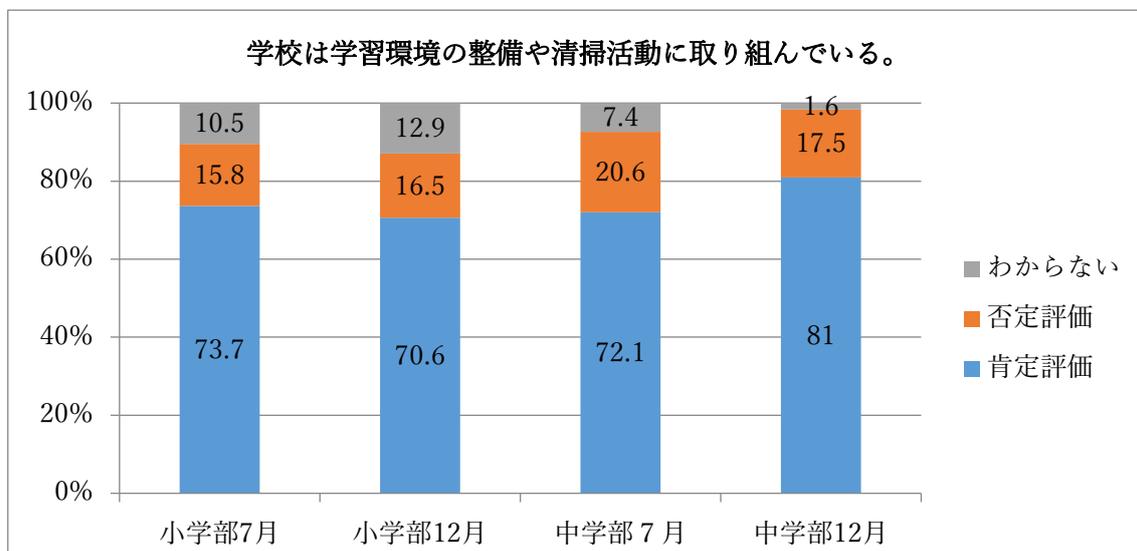
## 考察

中学部での評価は、個に応じた進路指導による成果が大きい。また、小学部での取組については、係活動や当番活動など、日常的な活動について、保護者に十分に伝えることができていない状況と考えられる。

## 改善案

係活動や当番活動などの様子学校HPや学級だより・保護者会などを通して積極的に伝える。

## 設問 10



## 結果

中学部での清掃活動について数値が高く、評価を得られている。

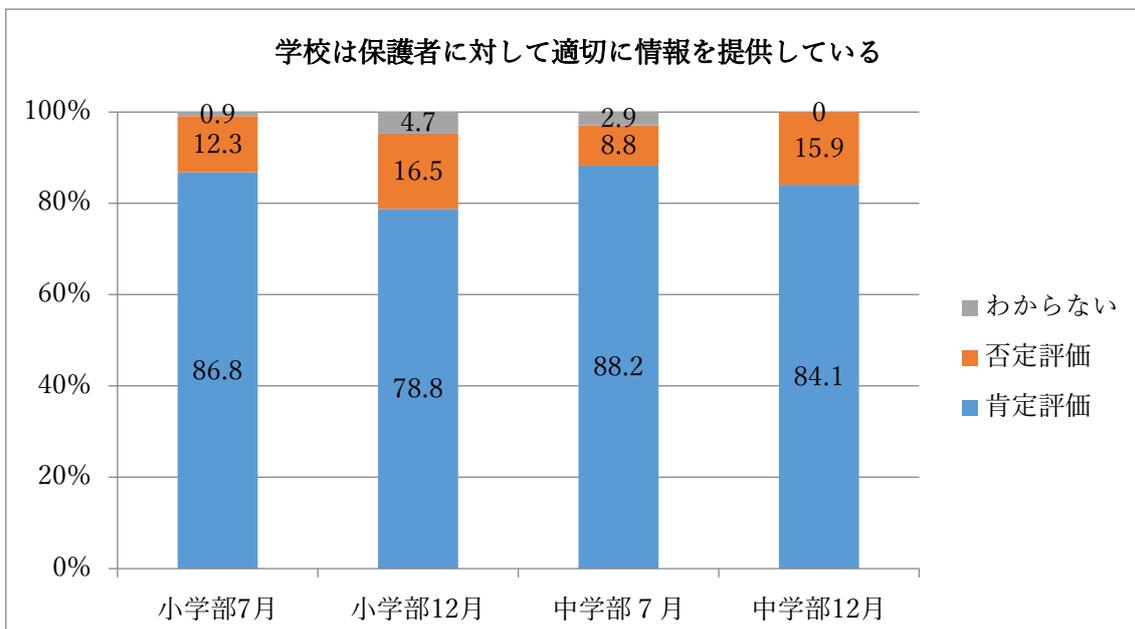
## 考察

教室環境、下駄箱や玄関を含めた校内環境の様子が小学部の評価の低さにつながっていると考えられる。

## 改善策

清掃の仕方だけでなく、清掃の大切さを学ぶ指導を学校全体で進めていく。また、子供たちに役割や自分自身の責任（自己責任）についても考えさせる時間をもたせる。

## 設問



## 結果

情報の伝達については、総じて80%程度を推移しているが、7月よりも12月の数値が低下している。

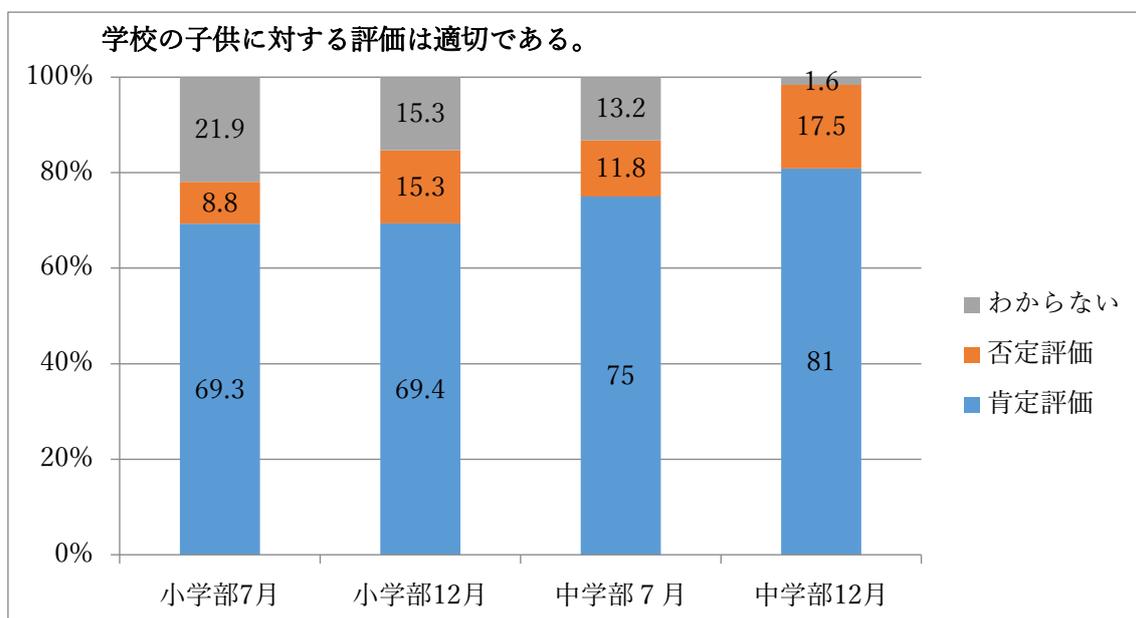
## 考察

4月から7月までの期間は、臨時休業と新型コロナ対応のための情報提供が多く、HPの更新や学校からのお知らせを複数出している。その時期と比較すると、学校からの情報提供は減少していることからこの結果と推察できる。

## 改善策

情報発信の重要性を意識した一年間であった。HP・メール配信・学校だより・学級だよりなど、様々な手段を活用して情報を伝達する必要がある。次年度は特にオンラインを活用した情報発信の方法について改善を行う。

## 設問 1 2



## 結果

評価について小学校中学校ともに、7月より12月の数値が向上した。「わからない」と回答した保護者が10%以上含まれている。

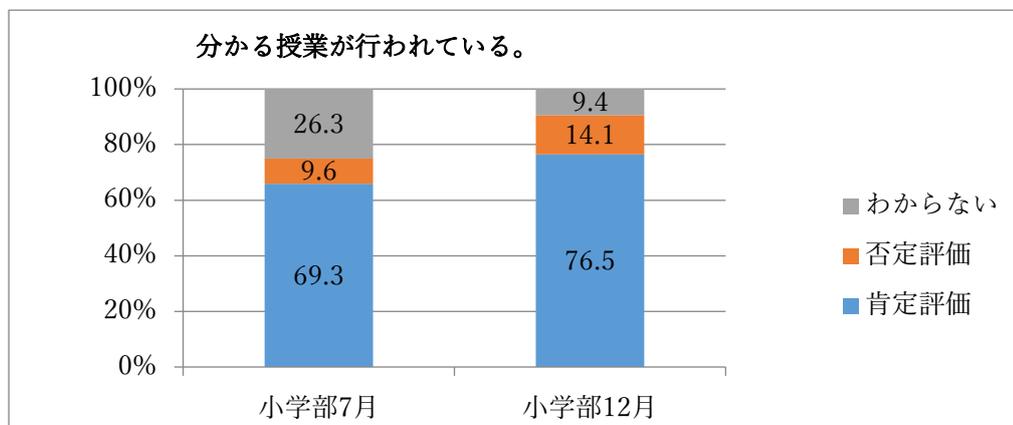
## 考察

1学期の臨時休業期間もあり、評価については、保護者の理解を得られる程度の指導時間を確保することが困難であった。また、評価については、例年よりも保護者会などで、繰り返し伝えていく必要があった。

## 改善策

評価の方法について、でわかりやすく説明できるような工夫を行う。

### 設問1 3 (小学部のみ)



#### 結果

肯定的な評価についての数値が向上しているが、否定的な評価についても数値が増えている。

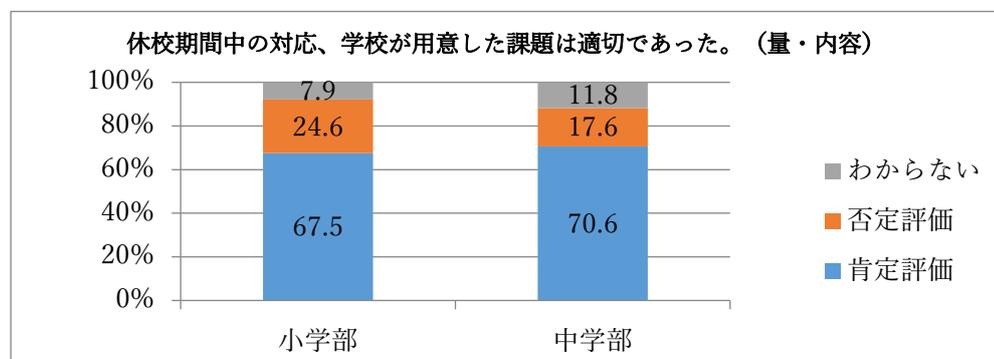
#### 考察

担任が日々授業について取り組んでいる状況を学校公開や子どもたちの様子からご判断いただいた結果と考えられる。

#### 改善策

今後も、ICT の活用・達成感のある学習活動等、様々な指導の工夫を行い、子供たちが「わかった。できた。」を実感できるような学習を進めていけるように努めていく。

### 設問1 4 (7月)



## 結果

学校ホームページを活用した方法で課題を提示するなどオンラインでの対応や取組を行った。評価としては、総じて80%以下という状況。

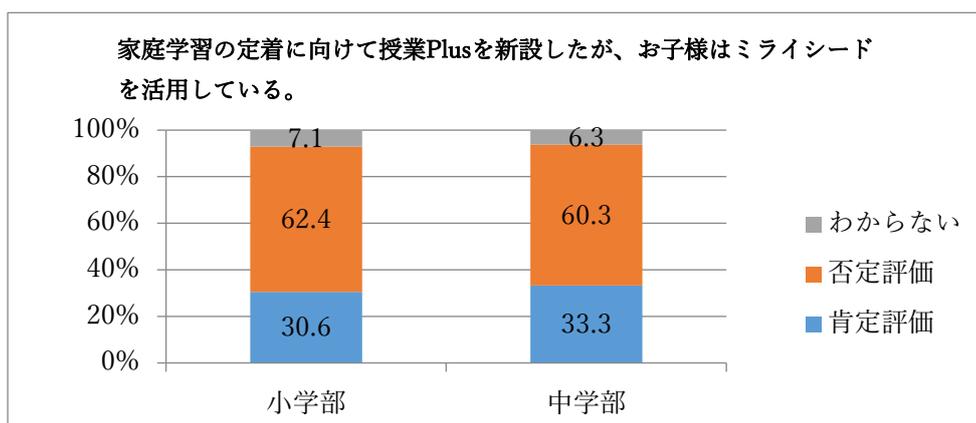
## 考察

HP活用の教職員研修や職務を行う組織づくり、課題の検討を行ってきたが、十分ではないととらえている。

## 改善策

次年度に向けて、今年度の課題を整理し、改善するとともに、一人一台端末の効果的な活用を検討する中で課題内容や提示の方法についても協議していく。

## 設問14（12月）



## 結果

保護者の方々のご協力により、授業Plus・ミライシードについて取り組む児童生徒は少しずつ増加してきた。小学校・中学校ともにアンケート結果としては、30%と低い数値を示している。

## 考察

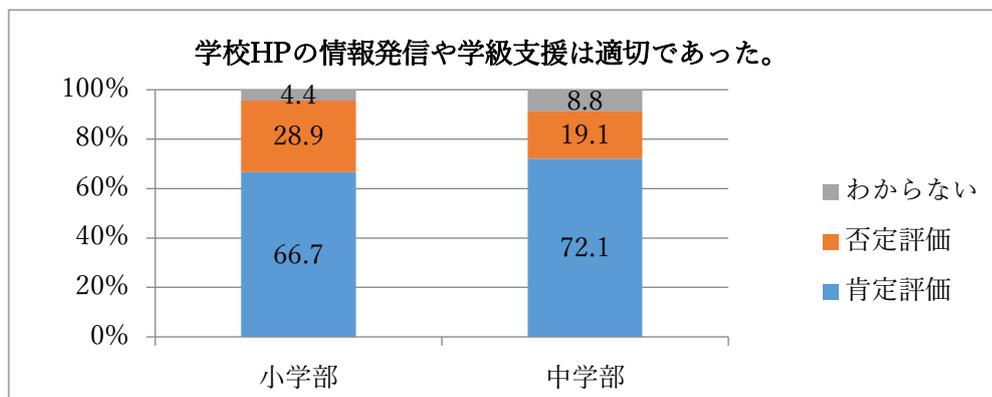
小学校・中学校ともに「わからない」と回答した保護者が60%となっている。オンラインを活用した学習についてまだ慣れない状況が考えられる。

## 改善策

次年度も一人一人が自主的に家庭学習に取り組みやすい方法を検討する。授業と家庭学

習の一体化を目指し、子供たち自身に家での学習を意識させられるよう改善を図っていく。

## 設問15 (7月)



## 結果

ホームページを活用し、授業 Plus のページを新設するとともに PDF ファイルや動画等で、情報発信・学習支援をおこなってきた。設問14と同様に、80%以下の数値を示し、課題が残る。

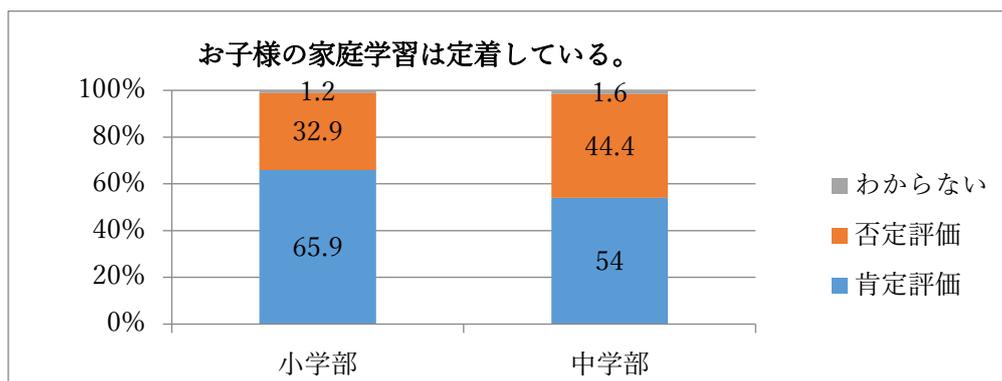
## 考察

HP 活用の教職員研修、職務を行う組織づくり、課題の検討時間の捻出などが必要だった。また、情報発信を行うものの、HP 内の情報の整理が十分ではなく、わかりにくかったと考えられる。

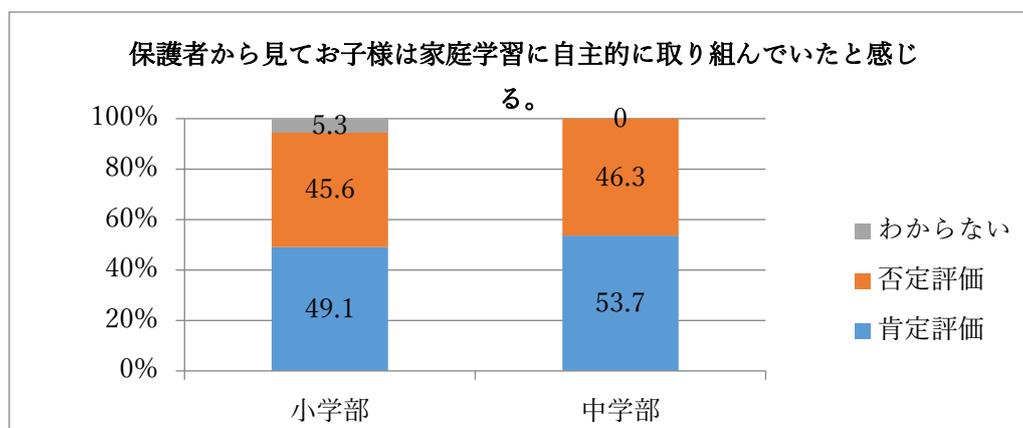
## 改善策

次年度に向けて、今年度の課題を整理し、改善するとともに、ICT 活用の研修時間を捻出する必要がある。

## 設問15 (12月)



## 設問16（7月）



### 結果

小学部・中学部ともに、肯定的評価が約半数、否定的評価も約半数という結果となった。

### 考察

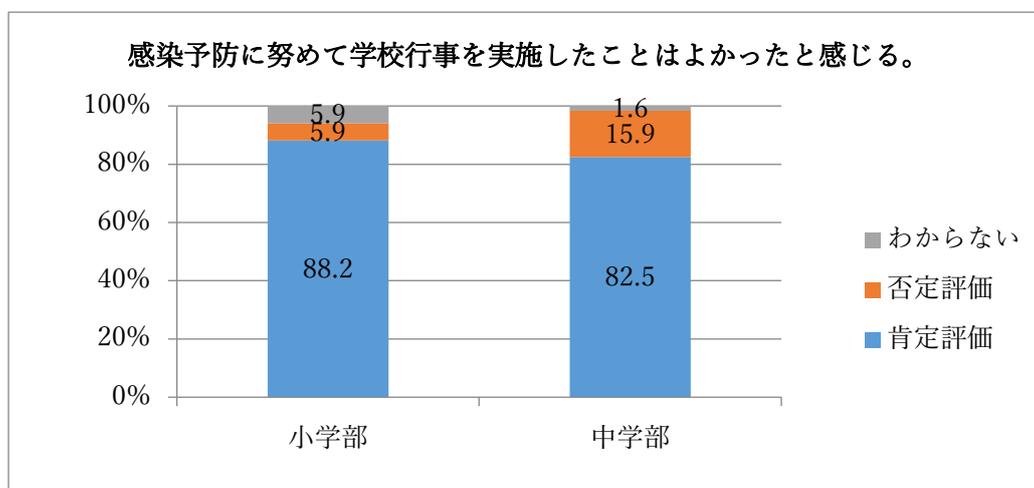
オンラインを活用した家庭学習と日常の授業とのつながりを重視した取組を行ってきたが、定着率が約半数と不十分である。家庭学習に取り組めるような児童・生徒に対する支援の工夫が必要である。

### 改善策

次年度、学級等で、家庭学習を定着させる取組や個別に対する声掛けなどの支援を工夫する。学校・家庭が連携して、子供たち一人一人の学習姿勢について育成を図る。

また、小学部での宿題と家庭での自主的学習の違いを明確にし、家庭学習の仕方や工夫など、再度指導していく。

## 設問16 (12月)



### 結果

小学部・中学部ともに80%以上の数値を示している。保護者の方々からも「子供たちにとってもよかった」という意見が多数あった。

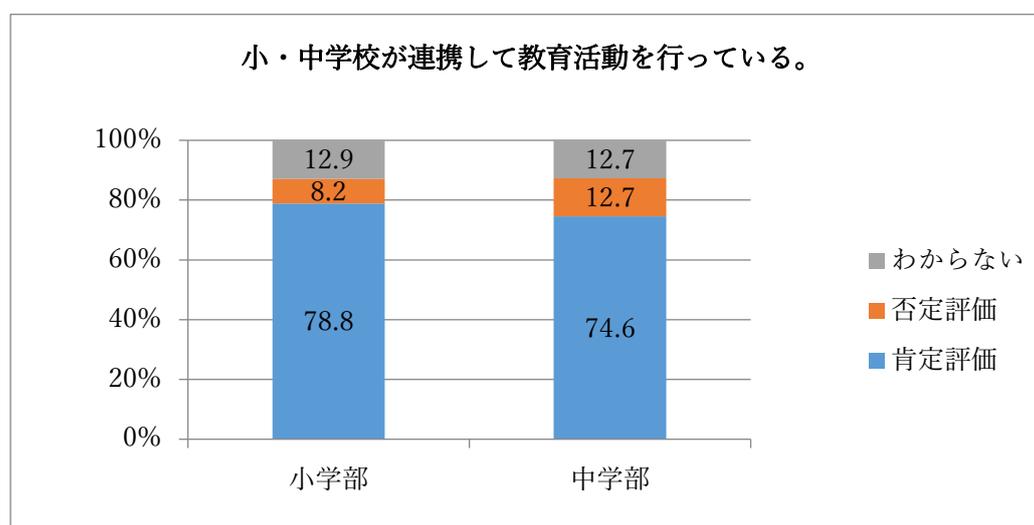
### 考察

子供たちの教育活動を保障するという考えについて保護者の方々にご理解をいただきながら、学校行事を可能な限り行った。子供たちを中心に考えてきた取組を理解していただいた結果と考えられる。

### 改善策

今年度のような社会情勢の中で、否定的評価もあった。様々なご意見を受け止めると共に今年度の課題を整理し、学校行事について感染予防に努め配慮しながら進めていく。

## 設問17



## 結果

小学部・中学部ともに75%程度の数値を示している。

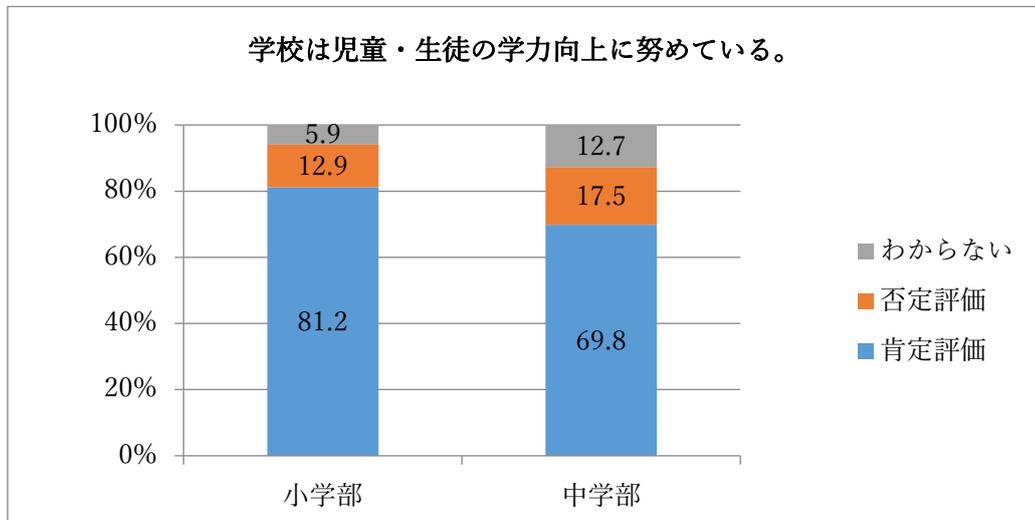
## 考察

子供たちの学習活動を保障するという考えの基、保護者の方々にご理解をいただきながら、学校行事を可能な限り行ってきた。子供たちを中心に考えてきた取組を理解していただいた結果と考えられる。大きな行事以外は連携活動があまり実施できなかったことも影響している。

## 改善策

次年度は小中一貫校として「小中一体」をさらに重視していく。合同体育祭だけでなく、小学部と中学部の学年での交流活動や特別活動内での交流など、様々な取組を検討する。

## 設問 18



## 結果

小学部では、80%以上の数値を示している。

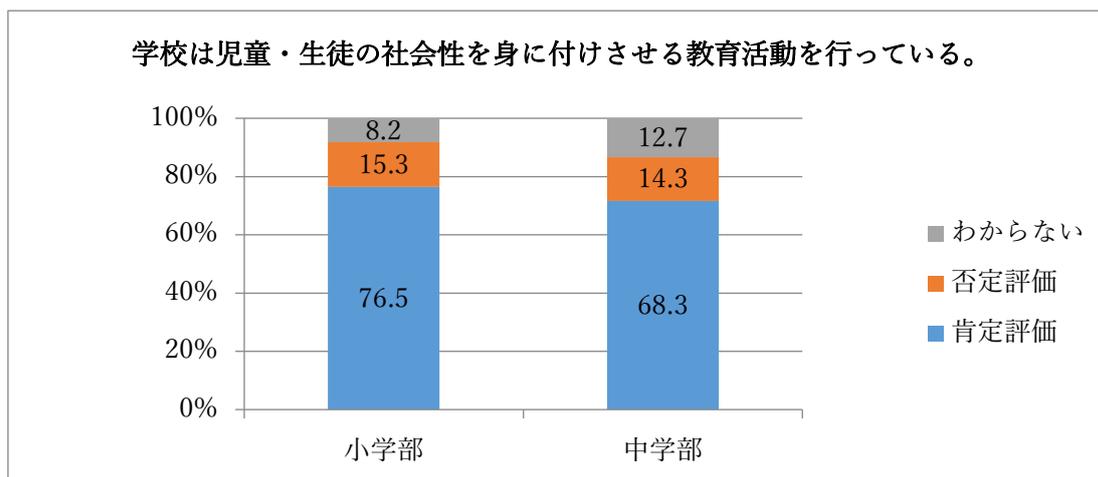
## 考察

宿題の提出の徹底や補習時間の設定などを繰り返し行ってきた成果と考えられる。

## 改善策

次年度も、学力向上を図るために、補習学習や家庭学習の定着を図る。一人一人の学習到達度を明確にした学習支援を徹底して行う。また、授業と家庭学習との一体化を図り、子供たち自身が自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせていく。

## 設問 19



## 結果

結果としては70%程度の数値を推移している。分からないという保護者の方も多い。

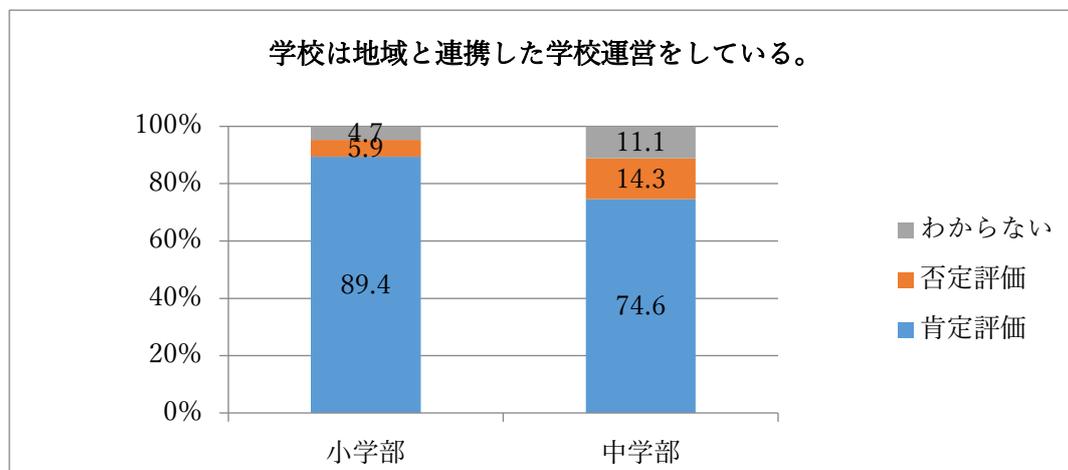
## 考察

今回のアンケートを通して、生活指導面や、授業の工夫など、校内での取組において保護者の理解を得られていない状況が見受けられる。生活指導面。進路指導面で、学校としても明確な指針を基に進めていく必要がある。

## 改善策

生活指導・進路指導・校内のきまりなど、子供たち一人一人の自立に向けた明確な指針を再度見直し、次年度に向けて校内で検討を図る。

## 設問 20



## 結果

小学部・中学部ともに80%程度の数値を示している。特に小学部では89.4%と高い数値を示している。

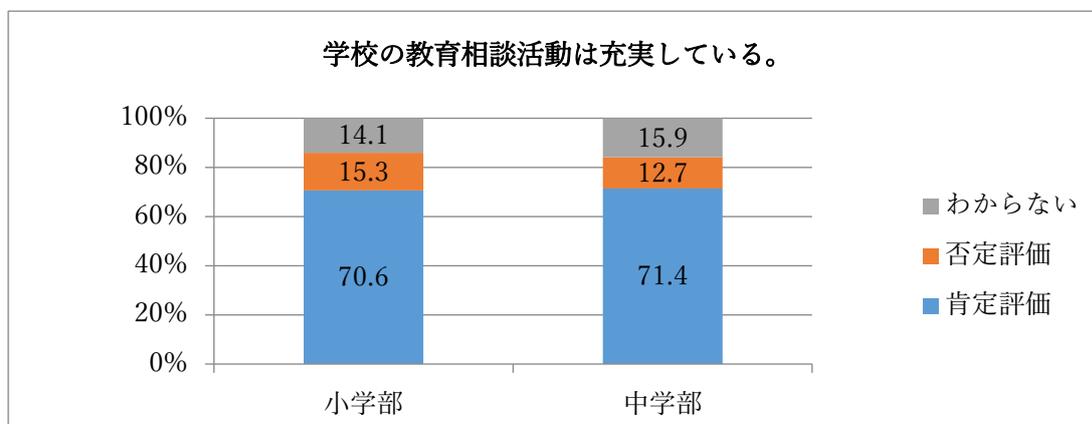
## 考察

放課後子ども教室や花育・バケツ稲の取組など、様々な行事が中止される中でも子供たちの教育活動を可能な限り実施した。

## 改善策

次年度も、感染予防対策を万全に行いつつ、子供たちの教育活動を積極的に推進していきたい。

## 設問 2 1



### 結果

小学部・中学部ともに70%以上の数値を示している。「わからない」と回答した方も10%以上いる。

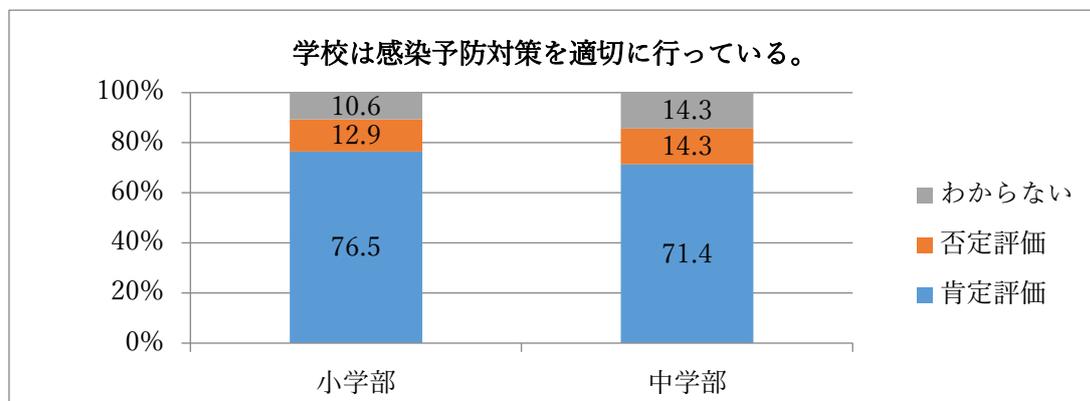
### 考察

スクールカウンセラー・未来塾・巡回心理士など、相談できる体制については整っているものの、相談のきっかけがつかめない保護者の方も多い。

### 改善策

保護者の方々がスムーズに、学校に来て相談できるように、相談の窓口を再度明確にする。また教育相談の手立てや支援の方法について教職員で研修を重ね、スキルアップを図る。

## 設問 2 2



## 結果

小学部・中学部ともに70%以上の数値を示している。

## 考察

学校の感染予防対策については、八王子市の感染予防の方針に沿って適切に行っている。しかし、感染予防対策については、様々なご意見をいただいた。

## 改善策

否定的なご意見についても真摯に受け止め、子供たちのために適切な予防対策を行う。また、様々なご意見や今年度の課題を整理し、感染予防の方法について明確にする。特に子供たちの必要な教育活動を尊重しながら行事を進めていく。今までの教育活動についての考え方自体もこの状況下で改革してくべきものと考えていく必要がある。さらなる改善を図るため検討を続けたい。